（別　紙）

総合評価書の要旨

森林整備目標の進捗状況の検証

1　評価内容

新たに策定する森林・林業基本計画の検討に活用するため、現行の森林・林業基本計画策定の基準年である平成 12 年度から平成 16 年度までを評価対象期間として、現行の森林・林業基本計画に掲げる平成 22 年の目標達成に向けた主要な施策や課題等について「森林の整備」及び「森林の保全」の観点から、その取組状況の有効性等について検証した。

2　評価結果と今後の対応方向

⑴ 平成 12 年度から 16 年度までの森林整備目標の進捗状況、森林の整備及び保全の取組状況は以下のとおり。

①　森林の整備の推進

ア　平成 16 年度末現在、育成単層林 1,033 万 ha、育成複層林 94 万 ha、天然生林 1,383 万 ha となっており、多様な森林整備への誘導に向けた方策が浸透していないことなどから、育成複層林への誘導の取組が低位となっている。

イ　平成 12～16 年度において、概ね年間 30 万 ha の間伐が行われ、緊急的に間伐が必要な森林における取組が順調に進められたものの、人工林のうち育成途中の森林がおよそ 7 割程度あり、多面的な機能の高度発揮が期待できない森林の増加が依然として懸念される。

ウ　高性能林業機械の保有状況は平成 12 年度のおよそ 1.2 倍に増加したが、素材生産量に占める高性能林業機械を使用した生産量の割合は 3 割程度にとどまっている。このような中、間伐や育成複層林施業に対応できる効率的な作業システムの導入・普及や低コストな作業システムに対応する路網整備が低調となっている。

②森林の保全の推進

ア　平成 16 年度末現在、延べ面積でおよそ 1,205 万 ha の森林が保安林に指定されるとともに、周辺の森林の山地災害防止機能等が確保された集落数がおよそ 4 万 9 千集落となるなど森林の保全に一定の成果がみられるものの、流域全体に及ぶものを含む山地災害が依然として発生している。

イ　松くい虫被害は全国的に減少傾向にあるものの、東北地方の高緯度地域や寒冷な高標高地域等では被害地域が拡大している。

ウ　シカなどの野生鳥獣による森林被害は依然として深刻な状況となっている。

エ　保護林や緑の回廊の設定により、優れた自然環境を有する森林が適切に保全されている。

⑵ 以上の検証の結果、森林の有する多面的機能の持続的な発揮に向けて以下の取組が重要。

①森林の整備の推進

ア　広葉樹林化、針広混交林化等多様な森林の整備への誘導に向けた条件整備が必要。このため、多様な森林整備を行う対象地についての考え方の提示や普及等の取組を進めることが必要。

イ　健全な森林を育成するため、立地条件等に応じ、路網の整備や高性能林業機械の導入等により効率的に間伐を実施していくことが必要。

ウ　施業の効率化を図るため、立地条件等に応じ、間伐や育成複層林施業に対応できる路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの開発・普及や、これらの作業システムに対応する路網の整備を推進することが必要。

②森林の保全の推進

ア　国有林と民有林を通じた保安林の適切な管理や総合的な流域保全対策等を推進することが必要。

イ　高緯度・高標高地域など松くい虫被害拡大の先端地域における防除対策を重点的に実施することが必要。

ウ　野生鳥獣による被害及び野生鳥獣の生息の動向に応じた効果的な防除対策を進めることが必要。

エ　今後も引き続き、森林生態系からなる自然環境の維持、種の保全等の観点から優れた自然環境を有する森林を適切に維持・保全していくことが必要。